

相談先一覧

いじめや不登校、体罰など
教育上のさまざまな悩みの相談

多可っ子悩み相談 多可町青少年育成センター

(0795) 32-3423
月～金 9:00～17:00
(祝日・年末年始を除く)

子どもSOSダイヤル
(通話料無料・携帯電話OK)

ひょうごっ子悩み相談

なやみ言おう
0120-0-78310
(24時間対応)
0120-783-111
(9:00～21:00のみ)
(12/28～1/3を除く毎日)

児童虐待に関する連絡や相談

児童虐待24時間ホットライン

(078) 921-9119

多可町教育委員会 こども未来課 (家庭児童相談)

(0795) 32-2385
月～金 8:30～17:15
(祝日・年末年始を除く)

妊娠から子育て中のさまざまな悩み・発達等に関する
相談窓口。まずはここにご相談ください

アスパルきっず (多可町子育て世代包括支援センター)

(0795) 32-5121
月～金 8:30～17:15
(祝日・年末年始を除く)

パソコンや携帯電話を使ったインターネット上の
誹謗中傷やいやがらせなどのトラブル等の相談

ひょうごっ子 ネットいじめ情報相談窓口

(06) 4868-3395
メールでの相談 soudan@hyogokko.npos.biz
月～土 14:00～19:00
(祝日・12/28～1/3を除く)



町内学校園

中町南小学校 32-0011
中町北小学校 32-0012
松井小学校 35-0001
杉原谷小学校 36-0009
八千代小学校 37-0033
中町中学校 32-0009
加美中学校 35-0300
八千代中学校 37-0049

みどりこども園 32-3927
あさかこども園 32-0026
四恩こども園 32-2915
キッズランドかみ 30-7770
キッズランドやちよ 37-0001

家庭教育の手引き

家庭を学びの環境に

～明日の多可町を担うこころ豊かな人づくり～



多可町教育委員会

保護者の皆様へ

教育の原点は家庭にあります。子どもの教育は家庭から始まり、子どもたちは、家族との温かい関わりや体験を通して多くのことを学び、たくましく成長します。

ところが最近、「人との関わりが苦手」「学びへの意欲が低下している」など子どもたちの様々な課題が指摘され、家庭の学習面でも「学ぶ習慣は身につけているのか?」「学習時間は確保できているのか?」などと問われています。

今こそ、私たち学校と家庭が一致協力して、子どもたちに健康な心身と道徳性を育て、「確かな学力」を身につけさせなければなりません。そのためにも、「早寝早起きをする」「あいさつをする」「家事を分担する」などの基本的な生活習慣としつけが大切であり、まず家庭で取り組んでいただきたいと思います。

そして、家庭における基本的な生活習慣の確立としつけを土台として、就学前においては「豊かな心を持ち、多可町の自然にふれ、ひとり、主体的に遊ぶ子ども」、就学後においては「自分を大切に、人を大切にする子ども」「ふるさと多可町を愛する子ども」「夢や目標に向かってたくましく生きる子ども」になってほしいと願っています。

この「家庭教育の手引き」は各家庭で子どもたちに関わる大人が目標を持って子育てを進めていけるよう、大切なことや具体的なアドバイス、ヒントなどを集めて作成しました。

ご家庭のみなさまにも本手引きの刊行に至る趣旨にご賛同いただき、「明日の多可町を担うこころ豊かな人づくり」のため、親子一緒にご活用いただければ幸いです。

多可町教育委員会

家庭を学びの環境に

生活にリズムを!

「早寝早起きをする」「朝食をきちんと食べる」など、規則正しい生活リズムが日々の子どもの生活を充実させ、家庭学習の習慣化につながります。

がんばりを見のがさずに!

子どもの学習に目を向け、必要な声かけや見守り(点検)を行いましょう。ねばり強い努力を積極的にほめましょう。

勉強は時間と場所を決めて!

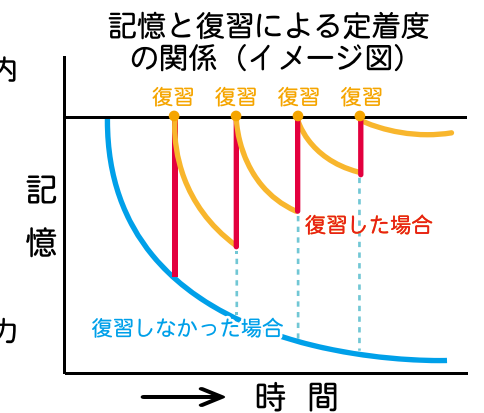
最初は短く、だんだん長く。目安は **15分 × 学年 + α** です。テレビを見ながら、おやつを食べながらはやめましょう。落ち着いた学習できる場所で、毎日進んで学習する習慣を身につけることが大切です。

復習するとこんなに違う!

授業で学習した内容は、時間の経過とともに忘れていきます(青色の曲線)。復習することで学習した内容を思い出し、それを繰り返すことで学習内容の定着につながります(オレンジ色の線)。復習は学習したことを覚えているうちにしましょう。その日のうちに…

- ・宿題をする(宿題は授業の復習です)
- ・授業のノートを振り返る
- ・学習した内容に関する問題をする

※学習から時間が経過するほど、復習するときの時間と労力が増えます(青色の点線)。



ずっと学ぶ好奇心を!

身のまわりや社会の出来事に目が向くように働きかけましょう。PTA行事や地域行事、社会教育講座等への参加をすすめましょう。

情報(インターネット)との正しいつきあい方を!

役立つ道具ですが、同時に危険性もあわせ持っています。ルールを守り、家族の目の届くところで楽しく使わせましょう。

一緒に家事を!

家族の一員としての責任感と自立心を育てましょう。家族が協力して家事を行うことで、それぞれの大切さも学びます。

先生と連絡を!

わからないこと、困ったことは遠慮せずに先生に相談しましょう。子どもたちのことを、先生と一緒に考えてみましょう。

多可町子ども憲章

わたしたちは、自ら考え行動できる指針としてその目標や理想を定め、子どもは自立に向けて努力し、大人は子どもの自立を支える糧となるよう、「こころ」子ども憲章」を制定します。

一、未来

わたしたちは、夢と希望を持ち、未来へ向かってたくましく歩んでいきます。

一、友情・思いやり

わたしたちは、誰とでも親切に接し、みんなが笑顔でいられるようにします。

一、命・人権

わたしたちは、いじめや差別をなくし、一人ひとりの命と人権を大切にします。

一、責任

わたしたちは、自分の言葉や行動に責任を持ち、何事にも積極的に取り組めます。

一、感謝

わたしたちは、家族、友だち、お世話になっている人たちへの感謝の気持ちを持ち続けます。

一、マナー

わたしたちは、マナーを守り、進んであいさつをします。

一、ふるさと

わたしたちは、豊かな自然に恵まれたこのふるさとを愛し、文化や自然を大切にします。



就学前は
こんな時期です



「育ち」の特徴

- 少しずつ身の周りのことが自分で出来るようになってきます。
- 良いこと、悪いことなどを自分で考えて行動する力も育ってきます。
- 何をしている時でもその中におもしろさを見つけられる時期です。子どもの興味関心を広げるために、それぞれの子どもに合わせて様々な体験をさせることが大切です。

● 家族と一緒に出かけましょう

自然の中では草花や生き物に触れたり、季節の移り変わりなどを肌で感じたりすることができます。日頃見慣れた町の風景であってもゆっくりと歩き、時には足を止めて「自然の不思議さ」「生命の大切さ」などについて、家族で話をしてみましょう。



● 集団で思い切り遊ばせましょう

同年齢や異年齢の集団で遊ぶことは、人と人との関わりなど社会のルールを学び、思いやりの心や規範意識のめばえを養います。また、今後の自分を支える自信となる「自尊感情」のめばえにもつながります。時には大人も一緒に楽しんで遊び子ども同士が遊ぶ橋渡しを行いましょう。

● 生活の中で繰り返し身につけさせましょう

小さな失敗や、物事を最後までやり遂げるのに多少の時間がかかっても、自分の身の周りのことは自分でさせるようにしましょう。また家の中で毎日できるお手伝いを一緒にしましょう。

● みんなで楽しく食事をとりましょう

マナーを守りみんなで楽しく食事ができるよう、望ましい食習慣づくりを心がけましょう。そのためにも、家族で食卓を囲み、家族団らんの大切さを見直しましょう。好き嫌いは調理を工夫するなど長い目で見ることも大切です。

● 絵本の読み聞かせをしましょう

自然に本に親しんでいく環境をつくるために、子どもが手に取りやすいところに絵本を置いておいたり、飲み聞かせをしたりして、豊かなイメージや言葉を与える絵本を家族一緒に楽しみましょう。



就学に向けて

- 登下校の道のりを一緒に歩いて危険箇所を把握しましょう。
- 落ち着いて授業に取り組めるように、話を聞けるようにしましょう。
- 着替えや排泄、身の周りの整理等、できるだけ自分でできるよう練習しておきましょう。
- 自分の名前が分かると持ち物の管理がしやすくなります。
- 学用品や持ち物を一緒に確認し、家の中ではどこに片付けるのか決めておきましょう。



ワンポイント
アドバイス



就学前

家庭生活・教育
こんな内容・方法で



健康

- 基本的な生活習慣を身につけ、生活リズムを整えましょう。(早寝早起き朝ごはん・規則正しい睡眠など)
- 外で思いっきり遊んで筋力やバランス感覚を養い、健康な体をつくりましょう。

人間関係

- 子どもの思いや考えを尊重しながらも、わがままはとおらないこと、時には我慢することが必要であること、また約束やルールを守ることなどについて教えましょう。
- 子どもの言葉に耳を傾けたり、褒めたり、認めたり、励ましたり…愛情いっぱい育てていく子どもは、やがて、これから出会う人たちを優しさで包み込むことでしょう。
- テレビやゲームばかりにのめり込むと、屋内に閉じこもる、人間関係をつくる力が育たないなど、子どもの健全な心の成長に影を落としかねません。ルールをつくり、それを守る習慣を付けさせましょう。

環境

- 草花や風、水など、身近にあるものをつかい工夫しながら遊ぶ楽しさを感じさせましょう。
- 「なぜ」「どうなっているの」「やってみたい」という気持ちを大切にすると共に、大人と一緒に考え、遊び、見守ることが子どもの好奇心を育てます。
- 「お皿は何枚いる?」「どのコップが一番たくさん入る?」「長い針が3になったらね」と、様々な場面で数量や図形等に興味や関心を持たせましょう。
- もの(おやつや玩具等)も大人の声(指示や命令、禁止や制止等)も与えすぎは逆効果です。

言葉

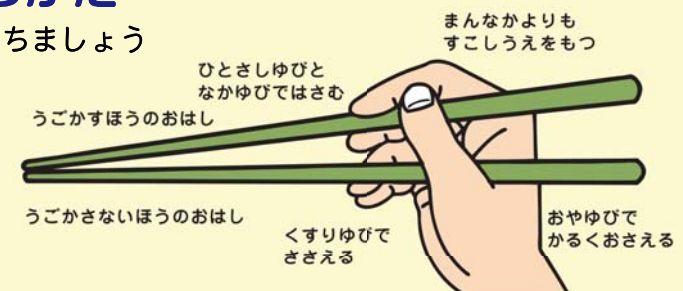
- 子どもの気持ちや思いなどを大人が代弁することで、子どもの言葉の表現が豊かになります。
- 身の回りのひらがなに興味を持ったり、しりとり遊びや歌などで言葉や文字にふれたりしてみましょう。

表現

- 美しいものや優れたもの(四季の移り変わり、絵本、音楽など)などにふれる機会をつくり、豊かな感性を育てましょう。
- 歌やダンス、絵画製作などをとおして表現する楽しさを味わわせ、創造性や表現力を豊かにしましょう。

おはしのもちかた

おはしをただしくもちましょう



小学校1・2年生は
こんな時期です



学習時間の
めやす

20~40分

「育ち」や「学び」の特徴

- ひとりで学習の内容や方法を定めることはまだ難しい時期です。家族の手助けが欠かせません。
- 「やったね!」「よくできたね!」まわりのほめ言葉が、すばらしい意欲を生み出します。
- いろいろなことに興味・関心を持ち、何でも知りたがりです。
- 「早寝早起き」「しっかり朝食をとる」「朝の排便」「正しい姿勢で座る」などの基本的な生活習慣が身につくと、学習の習慣も身につきます。
- 担任の先生はもちろん、学童保育の先生とも十分な連携が必要です。必要なことは相談しましょう。



学校での学習内容の特色

- 「読み・書き・計算」など、基礎的・基本的な学習が始まります。
- 教科ごとの45分間授業が基本です。先生の話をしっかり聞いて学習します。
- 生活と結びついた学習が多く、具体物を使ったり、実際に体験したりします。
- 繰り返し学習することで、力のつく学習内容がたくさんあります。
- 「鉛筆を正しく持つ」「明日の学習の準備をする」「整理整頓をする」も、基本となる学習です。

家庭学習の コツ! 3か条



- 1 最後までやり終える** ~家族と一緒に根比べ~
「宿題は最後までやること」を守らせましょう。最後までやったかどうかを必ず家族の目で点検しましょう。テレビやゲームも、時間のけじめをきちんと守らせましょう。ねばり強く働きかけることが大切です。
- 2 子どもに家事を!** ~高学年・中学生になっても~
家庭で、子どもにできる仕事を見つけてください。家族の一員としての自覚が育つとともに、学習に必要な持続力、集中力、根気などが育ちます。こうした家事の分担は学年が上がっても続けましょう。
- 3 子どもが見ています!** ~子は親のうしろ姿を見て育つ~
大人がお手本となるような「学ぶ」姿勢を見せましょう。子どもが学習しているとなりで、スマホを見ていませんか? 家族ぐるみでよりよい学習習慣づくりと環境づくりにつとめることが大切です。

親子で
確認

ワンポイント アドバイス



小学校
1・2年生 家庭学習
こんな内容・方法で

~家庭学習を始める前に~

- 学習前に、勉強する場所の整理整頓を。
- 学校からのプリント類を一緒に確かめる。
- 今日の宿題を一緒に確かめる。
- 鉛筆の正しい持ち方を教える。

宿題

全部できるようになれば、まず大丈夫!
宿題をやり終える子どもにしましょう。
家族のアドバイスが必要です。

日記

楽しかったことやうれしかったことを、
すこしでも素直に自分の言葉で書くよう
アドバイスしましょう。

国語

音読

- 楽しんで、すらすら読めるように毎日練習しましょう。
- 句読点に気をつけて、大きな声ではっきりと読みましょう。

漢字

- 書き順に気をつけて、丁寧にゆっくり書きましょう。



算数

- 速さを競わずに、楽しみながら計算に慣れるようにしましょう。正しく計算ができるようになれば、少しずつスピードを上げて計算しましょう。
- まちがった問題は、必ずもう一度やり直す習慣をつけましょう。正しい計算手順が確実に身につくように、ときには手順を唱えながら練習しましょう。

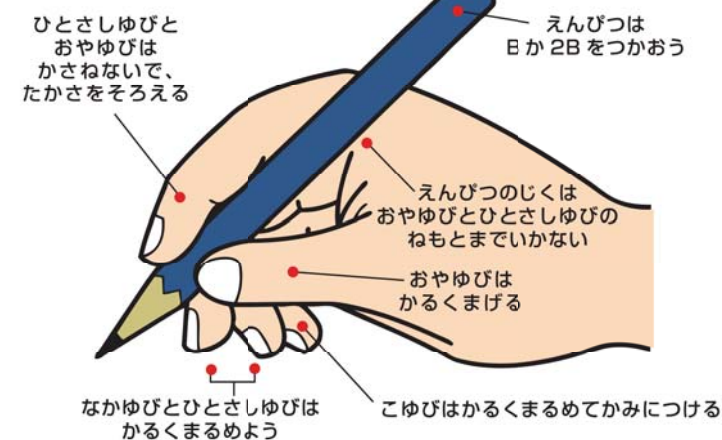
生活

- 休みの日には、山や川、動物園などにでかけ、本物の動植物にふれましょう。家でも生き物を育ててみましょう。
- 学校で学んだことを生活につなげていきましょう。身の周りの漢字や買い物での計算等ちょっとした声かけで学習がより楽しくなります。

長い休みにはこんなことを! ふだんできないことに、家族でじっくり取り組みたいものです。

絵日記をつける 水に十分浮く練習をする 図書館での読書を経験する
自分の町の自慢(自然・施設など)を絵に描いたり、身のまわりの材料で工作したりする
補助輪をはずして自転車に乗る練習 など

えんぴつの正しいもちかた



小学校3・4年生は
こんな時期です



学習時間の
めやす

50～60分

「育ち」や「学び」の特徴

- 自立心が芽生え、自分でやろうとすることが多くなりますが、まだ手助けは必要です。
- 好奇心が旺盛で、行動範囲も広がります。
- みんなと行動することを好むとともに、口答えや反抗が少しずつ見られるようになります。
- 家族の温かい助言や励ましの言葉が、やる気を起こさせます。

学校での学習内容の特色

- 「総合的な学習の時間」や「社会科」「理科」「外国語活動（英語）」の学習が始まり、学習範囲も大きく広がります。
- 資料集や地図帳、辞典などを使い、調べ学習をすることが多くなります。
- 新しい漢字を、たくさん習います。（3・4年生とも200字ずつ）
- 算数では、分数や小数など、少しずつ抽象的な内容を学び始めます。
- 四則計算（ $+$ ・ $-$ ・ \times ・ \div ）の基礎・基本を徹底して学びます。
- ストレッチやバランス運動、器械運動、走・跳の運動、泳ぐ運動、ゲーム及び表現運動を通して技能を養い、楽しみながら体力をつけていきます。



家庭学習の コツ！3か条



1

宿題以外の学習にも挑戦！～すすんで学ぶ好奇心を～

宿題以外の自主的な学習に積極的に取り組み、家庭学習のレベルアップを図っていくとよいでしょう。そのためにも、身のまわりの自然や社会の出来事にも目が向くように働きかけをしましょう。家事を分担し、進んで行うことも、りっぱな学習です。

2

テレビやゲームは時間を決めて！～家族の協力を～

テレビやゲームに夢中になって、時間がだらだらと長くなることがあります。けじめをつけさせることが自律性や学習への集中力を育てることに必要です。根負けせずに、アドバイスし続けましょう。また、協力して環境を整えてあげることも大切です。

3

ほかの子と比べない！～がんばりを本気でほめる～

学習に少しずつ個人差が出てくる頃です。友だちや兄弟姉妹で成長を比べることは避けて、本人の「がんばり」を見逃さずに本気でほめましょう。

親子で
確認

ワンポイント アドバイス



小学校
3・4年生 家庭学習
こんな内容・方法で

～家庭学習を始める前に～

- 学習前に、勉強する場所の整理整頓を。
- 学校からのプリント類を親に渡す習慣を。
- 今日の宿題を自分で確かめさせる。

宿題

子どもの力にあった内容や量になっているか、必要なときは先生とも相談してみましょう。

日記

様子がよく分かるように、会話を入れて詳しく書くようにアドバイスしましょう。読み直す習慣もつけさせましょう。

国語

音読

- 毎日1回は声に出して読みましょう。会話文は、気持ちをこめて読みましょう。
- 読みながら作品の内容を理解し、情景がイメージできるように意識しましょう。

漢字

- 学校の漢字ドリルなどを活用して、繰り返し丁寧に練習しましょう。
- 正しい筆順で「はね・はらい・とめ」に気をつけて書きましょう。
- 国語辞典や漢字辞典の使い方に慣れるよう手元におき、常に使用しましょう。

算数

- 計算手順が正しく身につくよう、毎日少しずつ計算しましょう。
- 筆算は位をそろえて書き、手順を確かめながら計算しましょう。
- 複雑な計算も、集中して順番に計算していきましょう。
- 見やすいノートの使い方をし、間違った問題は自分でやり直しましょう。

社会

- 都道府県の位置や地図の使い方を覚えましょう。
- 地域の産業や人々の生活（消防・警察・水・電気等）などについて触れる機会をもちましょう。



長い休みにはこんなことを！ たっぷり時間をかけてふだんはできないことをやってみましょう。

- 地域の行事や子ども会の活動などの場に参加して、気づいたことや感じたことをまとめる。
- 自分の町の自慢（自然・施設など）を絵に描いたり、身のまわりの材料で工作したりする。
- 少し長めの本を読み通したり、植物や動物の成長を詳しく記録したりする。など

我が家の場合…

- 家族の一員として何か家事に参加させること。我が家ではトイレ掃除を一週間交代で二人の子どもに分担しました。
- 周りの子と比べてイライラするよりも昨日の我が子と比べてほめましょう。

ちょっと

小学校で習う漢字は高校入試まで出てくると言われます。小学校のうちに身につけておきたいことは、まず「漢字っていやだなあ。面倒だなあ」という気持ちを乗り越えさせることです。そのためには毎日少しずつでも漢字練習をして慣れさせることが大切です。毎日毎日コツコツと努力を繰り返すことで力となるのです。あせらず取り組みましょう。

ちょっと

小学校5・6年生は
こんな時期です



学習時間の
めやす

70～90分

「育ち」や「学び」の特徴

- 一人前に接してもらっているか、大切にされているかなど、大人の評価が気になります。
- 自分を客観的に見つめたり、友だちと自分を比べたりするようになります。
- 考える力も大人並みになり、時には大人への反抗も見られます。
- 小学校の学習のまとめをして、中学校へつなげる大切な学年です。
- 得意な教科と苦手な教科を意識し始めます。
- 先生や家族のアドバイスにより、学習に対する意欲や興味・関心が大きく左右されます。

学校での学習内容の特色

- 「家庭科」の学習が始まり、衣食住の基礎・基本を学びます。
- 学習内容が多くなる上に、社会や世界に目を向けた学習もします。
- 筋道を立てて考える理論的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えてきます。
- 自分で課題を見つけ、解決していく学習（問題解決的な学習）が多くなります。
- 自ら学ぶことのおもしろさや楽しさを経験させ「学び方」や「ものの考え方」を育てます。
- 各種運動を通じて技能・体力の向上を図るとともに、陸上記録会や駅伝大会に出場する児童もいます。



家庭学習の コツ！3か条



- 1 予定を立て、計画的な学習を！**～勉強時間を決めて～
放課後もあわただしく過ごす子どもが多く見受けられます。その日の予定を立て、見通しをもって学習させましょう。必ず学習する時間帯の設定をさせましょう。
最初は予定通りできないこともあります。長い目で見守りましょう。
- 2 今一度、基本的な生活習慣の見直しを！**～生活リズムを～
生活リズムの乱れは、勉強ぎらいにつながります。「早寝早起き・夜更かしをしない」「朝食をとる」「朝に排便を済ませる」「テレビやゲームの時間を決める」など、中学校生活に向けて、今一度生活習慣の見直しをさせましょう。家事の分担も積極的に進めましょう。
- 3 目標に向かって努力することの大切さを！**
子どもの将来の夢や希望について、話してみましょう。学校での学習の状況や親の失敗談を話してみるのもいいですね。そうして自分で目標をもって努力を続けることの大切さを伝えましょう。「偉人伝」を読ませてみるのもよいでしょう。

親子で
確認

ワンポイント アドバイス



小学校
5・6年生 家庭学習
こんな内容・方法で

～家庭学習を始める前に～

- 学習前に、勉強する場所の整理整頓を。
- 学校からのプリント類を親に渡す習慣を。
- 宿題を自分で確かめ、やる順番を決めさせる。

宿題

学校での学習を振り返りながら、教科書やノートを参考にして、苦手な内容もねばり強く取り組むようにアドバイスしましょう。

日記

書くことに慣れるとともに、自分の気持ちや考えを整理することの大切さに気づくように働きかけましょう。

国語

音読

- 間を取りながら読むなど、自分のめあてを決めて練習しましょう。
- 詩や俳句、短歌などを暗唱したり、朗読したりしましょう。
- 初めて読む作品も、おおまかなあらすじや内容を把握できるよう、イメージを膨らませて読むようにしましょう。

漢字

- 漢字の構成や字形を意識して練習しましょう。
- 習った漢字を使って、熟語や短文を作りましょう。
- 国語辞典や漢字辞典の使い方に慣れるよう手元におき、常に使用しましょう。



算数

- よく間違える計算は繰り返し練習しましょう。時には、前の学年に戻って練習することも効果的です。
- 答えの確かめを自分でできるようになりましょう。

家庭科

- 家庭科で学習したことを、家庭生活の中で実践しましょう。
- 学んだことを生かし、家事の分担を考えましょう。

外国語
(英語)

- コミュニケーションの楽しさを味わい、外国語（英語）や文化に興味を持ちましょう。
- 身のまわりのことを英語で表現したり、自己紹介をしたりしてみましょう。
- 外国の音楽や映画、食べ物、ファッションなどに触れてみるのもいいでしょう。

長い休みにはこんなことを！

- 博物館や美術館にでかけ、自然や文化歴史に触れたり、絵画などを観賞したりする。
- 買い物から調理まで家族でクッキングに挑戦する。
- 自分の町の自慢（自然・施設など）を絵に描いたり、身のまわりの材料で工作したりする。



ちよこ

算数・数学の学習で大切なことの一つにノートをきれいにとることがあげられます。きれいにとることで、つまらない計算ミスがなくなり、頭の中も整理されます。ただきれいに書くものではありません。「日付・ページ・番号を書く」「定規を使う」「間違いは赤で書き直す」「筆算はノートをより広く使う」など、正しい方法で努力すれば必ず伸びます。きれいに書けたときは、めいっばい本気でほめてください。何事にも「励まし」の継続が必要です。

ちよこ

中学校1・2年生は
こんな時期です



学習時間の
めやす

100~120分

「育ち」や「学び」の特徴

いわゆる「思春期（大人への入り口）」といわれる時期です。

- 心と体の成長がアンバランスになりがちで、不安や悩みを抱えやすくなります。
- 家族に依存したいという気持ちと、家族から自立したいという気持ちが混在します。
- 矛盾する大人の態度に反抗的になります。また、仲間や友だちの影響を強く受けます。
- 他人から見た自分を意識し、比べて落ち込んだり、無理に合わせようとしたりします。
- 中学校生活を有意義に過ごすためには、部活動との両立が大切です。
- まだ未熟ではあるものの、大人と同じような思考ができ、頼りがいが出てきます。

学校での学習内容の特色

授業の内容が大きく変わります。

- 教科ごとに先生が変わることに加え、小学校で学習する内容に比べ質・量ともに、ずいぶん違ったものになります。
- 自分から課題を見つける家庭学習に変化していきます。
- 最初は与えられた課題から、やがて勉強方法や内容を工夫して、何をするか自分で考え、決められるようになることが大切です。



家庭学習の コツ！3か条

1 予習で工夫を！復習に重点を！

あらかじめ自分で調べたり考えたりして授業に臨めば、課題を見つける力もつきます。また、その日のうちに教科書やノート、プリントを使って学習のポイントを整理し、思い出すように働きかけましょう。「継続」は「習慣」となり、いずれ「性格」にも影響します。

2 学校（先生）のプリントの有効利用を！

学校のプリントやテストには学習のポイントが整理されています。有効利用するようにアドバイスしましょう。テスト直しをすることは復習としてとても重要です。また、答案用紙も残しておけば、間違ったポイントも分かり、復習にも役立ちますこれこそが理解の近道です。間違えた問題はチャンスとして生かしましょう。

3 「急がば回れ」の気持ちで！

問題に取り組んでいてわからない時は、わかるころまで戻ってやり直すとともに、間違ったところは必ず見直すことが大切です。先生に相談することもよいでしょう。学習課題をやりきったという達成感と自信がさらなるやる気を起こします。

親子で
確認

ワンポイント アドバイス



中学校
1・2年生 家庭学習
こんな内容・方法で

- 「毎日何時間勉強する」「毎日教科書（問題集）を何ページする」など具体的な目標を立てよう。
- 学校の時間割に合わせて、予習復習の計画を立てよう。
- 毎日決まった場所で決まった時間に決まった教科を勉強しよう。

国語

- はっきりと声に出して教科書を読みましょう。繰り返して読むことが大切です。
- 漢字は何回も書いて、確実に覚えるようにしましょう。
- 意味の分からない語句は国語辞典で調べて確かめておきましょう。

社会

- 新聞やテレビで話題になっていることを、自分でも考えてみる習慣をつけましょう。
- 教科書を繰り返し読んで、内容の理解に努めるようにしましょう。
- 学習したことをノートに工夫してまとめてみましょう。

数学

- その日の授業で取り組んだ計算問題をやり直しましょう。
- 教科書に載っている文章題と同じ種類の問題を問題集などを使って解いてみましょう。

理科

- 図やグラフなどの資料を見ながら、なぜそうなるのかを考えるようにしましょう。
- その日の授業で学習したことをまとめたり整理したりするなど、ノート作りを工夫しましょう。
- 自然や科学に関心を持って、テレビや新聞などで疑問に思ったことを調べてみましょう。

英語

- 新出語（句）と基本文は声に出しながら繰り返し書きましょう。
- 教科書で習った本文は、まず声に出して読んでみましょう。読めたら、その意味を日本語で書いて、今度はその日本語を見ながら英文が書けるまで練習しましょう。
- 習った基本文型や文法を用いて、自分に関係のあることから英文で書いてみましょう。
- 映画や音楽、身近な外国人との交流を通して、積極的に英語にふれていきましょう。

授業では、黒板をそのままノートに書き写すだけでなく、自分なりの工夫をしましょう。そうすることでノートを振り返ったときに、授業内容をより思い出しやすく復習に役立ちます。

ノートの取り方 ひと工夫！

たとえば…見やすいように余白を作る 適度に色分けをする
先生の説明を書き加える 簡単な図やイラストを入れる
自分なりの説明や思いついたことを書き加える

長い休みにはこんなことを！

お正月やお盆は遠方の親族や知り合いと話す機会が増えます。都会の様子や仕事の話など、いろんな人の話を聞くことで視野を広げましょう。自分の将来や夢について考えるいい機会です。

将来



ちよこ

この時期の子どもは、友だちとの関係を強く意識し悩むことも多くなります。考えを押しつけるのではなく、子どもの話をじっくりと聞き、子ども自身が解決の糸口を見つけることができるよう、陰から支えましょう。そのためには日頃からなんでも相談できる大人の存在が大きな支えになります。

ちよこ

中学校3年生は
こんな時期です



学習時間の
めやす

2~3時間

「育ち」や「学び」の特徴

まさに人生の節目の時期です。

- 自らの進学や就職などの進路決定をする時がだんだん近づいてきます。
- 「やらなくては」と分かっているが、思うようにならない自分に苛立ちを覚えます。
- 気持ちが不安定なときは、大人がかかる言葉に敏感になり、時には反抗することがあります。
- 親の保護のもとから、社会へ参画し貢献しようとする行動力が発揮されます。

学校での学習内容の特色

- 目先の進路だけを意識すると対策的な学習になりがちです。まず、基礎・基本を確実に身につける総復習が必要です。
- 3年生の学習内容は1・2年生の学習内容とかけ離れて難しいわけではありませんが、3年生の授業の復習と1・2年生の内容を復習する必要があります。

やすらぎとささえ

- 家族として今まで以上に気をつかう時期です。子どものやる気を尊重しながらもできるだけ家庭学習に関わっていくことが大切です。
- 子どもの将来の夢や希望、就職や進学などについて家族で話し合しましょう。必要なときは先生とも相談しましょう。
- 休憩時間に家族から出される軽食や飲み物等のちょっとした気づかいも、家族から見守られている、支えられているという思いが伝わります。

中学3年生になったら
今一度家族みんなで生活習慣の点検を！



朝食は必ずとる！

大切なエネルギー源で脳の働きにも関係します。



睡眠時間はたっぷり！

睡眠不足では疲れがとれません。夜更かしはやめ、明日の生活にベストコンディションで臨めるようにアドバイスしましょう。



計画的に時間を使う！

特に部活動を引退後は帰宅してから夕食までの時間を有効に活用して生活リズムを整えましょう。テレビなどの視聴は番組を選び、時間を決めるよう働きかけましょう。分担した家事も続けましょう。



あいさつや会話を大切に！

「おはよう」「行ってらっしゃい」「おかえり」のあいさつはもちろん、楽しい会話で家族の絆を強く感じることができます。

親子で確認

ワンポイント
アドバイス



中学校
3年生

家庭学習
こんな内容・方法で

- 得意な教科は問題集などでどんどん進みましょう。
- 苦手な教科は分かるところまでさかのぼってやってみましょう。
- 先生から自分にあった学習方法をアドバイスしてもらいましょう。

まずノートを見て、その日の授業をふりかえりましょう！

- 詳しく知りたいことや、わかりにくかったことは教科書や参考書で確かめましょう。
- 国語の漢字や言葉、英語の単語や文法などは、繰り返し書いて覚えましょう。
- 数学の計算や文章題は、同じ問題や似た問題を問題集で解いてみましょう。
- 社会や理科では、大切なことをわかりやすくまとめておきましょう。



テスト日をめやすにしてスケジュール管理をしましょう

- 定期テストや教科の小テストなど、いつ何があるかをカレンダーに書き込んでおきましょう。
- テスト範囲とテスト日までの日数を考えて、その日に何を勉強するかも書き込んでおきましょう。
- スケジュールをもとに計画的に学習に取り組めたらカレンダーにチェックをいれるといいですね。

夏休みにはこんなことを！

- 1・2年生までの総復習を集中して続ける絶好の機会です。
- 問題集などのページ数を休みの残り日数から、1日に学習する時間や量を決めて進めます。
- 読書を通して心を育てましょう。また、読後の感想も書いておきましょう。

冬休みにはこんなことを！

- 進路を見据えてラストスパートです。
- 出題傾向を調べ、進路希望に合った問題集などに挑戦しましょう。



我が家の場合…

我が子の中3の時を思い出して一言…。ズバリ時間の有効活用が大切。ゲームなどに費やしている時間をしっかり話し合って短縮し時間を生み出すことです。子どもにだけ「見るな！」などと言って家族が野放図に見ているのは駄目。子どもはちゃんと見えています。進学や就職の難関を突破する重要な年です。家族も協力し、努力と我慢が必要な年だと思います。



『なぜ朝食が大切なのか？』

ちよこ

朝食をとると…

「体温を上昇させ、血流をよくする」
「食事からのエネルギーが脳に供給され、活発に活動を開始する」
「噛む・飲み込むといった行為によって感覚神経も刺激される」
など体全体を目覚めさせてくれます。
朝食抜きは集中力に欠けるなど脳の働きにも影響します。

ちよこ

始めましょう 家庭で読書

なぜ本好きな子どもは学力が高いのでしょうか

国語力はすべての科目を学んでいく上で必要になるものです。算数の文章問題を解くにも、社会や理科の授業や総合的な学習において自分の考えをまとめて発表するときも、国語力は必要になります。国語力は全ての学力の基盤となる力であり、この力を身につけるのに効果的なのが読書です。

『いい本』に出会うことは、『いい人』に出会うことに似ています

また、子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。

本を読む子を育てるためには、小さな時から本に親しむことが大切です。感動的な一冊の本は、子どもの感性や情緒、想像力をはぐくみ、読書習慣を身につけるきっかけともなります。

小学校低学年くらいまでは…

子どもたちに読書の楽しさを伝えるには、「読み聞かせ」がよいと言われています。絵本や物語はもちろん、昔話、なぞなぞ、ことば遊びの本など、多くのジャンルから本を選び、子どもの世界を広げてあげましょう。

- 子どもを膝の上に乗せて一緒に絵本を読みましょう
- 眠る時に子どもの枕元でおはなしを読み聞かせましょう
- 子どもと一緒に声を出して、ことば遊びの本を楽しみましょう
- 地域の読み聞かせイベントに子どもと一緒に参加しましょう
- 子どもと一緒に本を見ながら、料理を作ったり工作をしたりしましょう



小学校中学年以上になったら…

読み物や物語の楽しさを味わったり、科学や社会の本への興味を深めたりするとよいと言われています。優しさや思いやりなどの豊かな心や、知る楽しさなどの知的な好奇心が育ってゆくでしょう。

また、周りの大人が読書を楽しむ姿を見せることも大切です。子どもと一緒に図書館や書店に行き、本を選んだりする姿を見せてあげてください。家族みんなで読書を楽しむ時間をもてるといいですね。

- 子どもと一緒に図書館や書店に出かけましょう
- 家族で「読書の時間」を設けて、その時間にそれぞれが好きな本を読みましょう
- 1冊の本をそれぞれが読み、感想を話しましょう



親子のぬくもりを感じながら優れた絵本に接し、一緒に共感し合うひときは、子どもの感性や心を豊かにする貴重な時間になります。

「親子読書」は、子どもにとってうれしい時間の一つです。家族のふれあいを通して読書のすばらしさを次の世代に伝えていく、そんな「親子読書」を、始めてみませんか。

**一番ステキな本は、お父さんお母さんの声で読む本です。
始めましょう！家庭で読書。**

いじめの サインを 見逃さない ために

子どもたちが元気で過ごすことがみんなの願いです

- どの子どもも、いじめの被害者にも加害者にもなり得ます。
- 人間関係のトラブルを回避し、プレッシャーをはねのけられるように育つことも大切です。
- 人の悪口を言わないなど、子どもの手本となるような姿勢を見せましょう。

いじめられていい理由などひとつもありません

いじめに関する間違った先入観

- 「うちの子は、いじめられるはずがない」
- 「うちの子は、いじめるはずがない」
- 「親子の信頼関係があるから、いじめられたら親に言ってくれるはずだ」
- 「いじめられるほうにも原因があると思う」

～子どもたちが変わった様子はありませんか？～

もし“いじめられているかも”と思ったら

- 家に帰って元気がない。（「ただいま」の声など）
- 持ち物に落書きがある。
- 服が汚れている。
- 物をよくなくす。
- 食欲がない。
- 朝になると身体の不調を訴える。
- 弟、妹をいじめたり、親に反抗したりする。
- 顔や背中、腕など、体にあざがある。



かけがえのないわが子を守るために

- 子どもの気持ちを受け入れ、共感しましょう。
- 子どもに「最後まで守り抜く」ことを伝えましょう。
- 「いじめられる側にも理由がある」などの考えは絶対いけません。

解決に向けて

- ◆ 真の「心の居場所」となる家庭づくりに努めましょう。
 - 子どもが安らげる場にしましょう。
 - 子どもを温かく見守り、十分に目を配りましょう。
- ◆ 学校（先生・スクールカウンセラー等）に相談しましょう。
- ◆ 相談機関に相談しましょう。



もし“いじめをしているかも”と思ったら

- 買ってもないものを持っている。
- おこづかい以上のお金を使っている（持っている）。
- 言葉づかいが悪くなった。
- 反抗的な態度をとるようになった。



解決に向けて

- ◆ 子どもの小さなサインを見逃さず、しっかりと寄り添い、子どもの心を開くように努めましょう。
- ◆ 相手も悪いという考えは絶対いけません。
- ◆ 学校（先生・スクールカウンセラー等）に相談しましょう。

ネットの危険から子どもを守るために

保護者の正しい知識と見守りが子どもの安全を守ります

携帯電話をはじめスマートフォン、ゲーム機、音楽プレーヤーなど身の回りには様々なインターネット接続機器であふれています。インターネットの利用は便利で楽しいことばかりではなく、使い方を誤ると犯罪やトラブルに巻き込まれる危険があります。まず子どもに持たせる際には、単に「欲しがらから」「みんなが持っているから」ではなく、本当に必要かどうか、何のために、どのように使うかをきちんと話し合う必要があります。

そのためには保護者が正しい知識を持ち適切な利用を促すとともに、子どもにもインターネット利用に潜む危険を認識させることが重要です。

フィルタリングの設定は保護者の義務です！

「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律（平成29年6月改正）」が施行されました。お子さんが携帯電話を購入する際は **18歳未満であることを必ず伝え**、フィルタリングの設定をしてもらいましょう。
（端末によってフィルタリングの効果や設定が違うため詳しいことは携帯電話会社にご確認ください。）



ゲーム機もインターネット接続端末です！

ゲーム機は、単に「ゲームをするための機器」という認識があるため、気軽に買い与えてしまいがちです。しかし、今のゲーム機は携帯電話のように通信契約をしていなくても、インターネットへの接続機能がついていれば無線LANの電波が届く環境で、知らない人と一緒にゲームをプレイしたり「チャット」という機能を利用して会話をしたりできます。このため、不特定多数の人とつながりを持ち、出会い系サイトのように実際に他人と会うことも可能な状況です。

ゲーム機もインターネット接続端末の一種ですから、パソコンやスマホと同様のトラブルが起きるものと捉え、フィルタリングサービスやゲーム会社が提供する課金の上限設定などを利用しましょう。

事例（中2男子 Aくん）

中学3年生のAくんは、LINEでいくつかのグループに属している。スマホの画面にはメッセージが流れっぱなし。自分が見ていない間にどんな会話が行われているのか、会話についていくのに必死で布団の中まで持ち込んでついつい夜中まで。ついには、体調を崩して、熱心に活動していた部活動も休むようになり、成績も低迷することになってしまった。

AくんにとってLINEのつながりは、学校から帰った後もそのまま現実での人間関係になって継続しており、仲間はずれになってしまうのでは、という思いがやめようという意志をかき消してしまった。



事例（被害者 中2女子 B子さん・被疑者 29歳男性）

被疑者はLINE IDを交換する非公式掲示板サイトを介してBさんと知り合い、以降LINEを使用して連絡をとり、Bさんに裸の写真を自撮りさせた上、その画像をメールで送信させた。また、その画像の位置情報から、Bさんの自宅住所を割り出し、つきまとった。

携帯電話・ゲーム機

購入する前に！！

家庭のルールをつくりましょう

目に見えるところで利用させましょう

トラブルの時にはすぐ保護者に相談するよう話をしましょう。また、自室などに持ち込ませず、置き場所や使用場所を決め、目の届く範囲で利用させましょう。



家庭のルールの例

- 困ったときはすぐ相談する。
- 利用する時間帯・場所を決める。
- 暗証番号は保護者が管理する。
- アプリのダウンロードはひとりではない。
- サイトに登録するときは、事前に相談する。
- お金がかかる場合は事前に相談する。
- 名前・顔写真、学校名などは書き込まない。
- 知らない人のメールに返信しない。
- 月に一度、保護者と一緒に利用状況を確認する。
- ルールを破ったら、一時利用禁止にする。



我が家のルール

ルール1 _____

ルール2 _____

ルール3 _____

ルール4 _____

ルール5 _____

ルール6 _____

参考サイト
<http://www.frey.jp/sol/edu/> 「スマホ18の約束」
 参考図書
 「学校や家庭で語り合う スマホ時代のリスクとスキル ～スマホの先の不幸をブロックするために～」
 竹内 和雄 編 北大路書房



保護者がお手本！

画面ではなく『子どもを見つめ、見守ること』を大切に

子どもは保護者の姿をお手本にして育ちます。保護者自身も適切なインターネットやスマートフォンの利用を心がけましょう。

なによりも安心して子どもから相談できる関係が問題の早期発見にも繋がります。そのためにも子どもの声に耳を傾け、日頃から親子のコミュニケーションをしっかり取りましょう。